

愛知県公立高等学校入学者選抜方法協議会議（平成24年度第2回）

について

このことについて、平成24年7月20日に愛知県公立高等学校入学者選抜方法協議会議を開催し、まとめを得ましたので、別紙資料に基づき報告します。

平成24年7月23日

高等学校教育課

(別紙資料)

愛知県公立高等学校入学者選抜方法協議会議開催要綱

第1 趣 旨

愛知県公立高等学校入学者選抜方法について研究協議をするため、愛知県公立高等学校入学者選抜方法協議会議（以下会議という。）を随時開催する。

第2 構 成

会議は、次に掲げる委員をもって構成する。

- (1) 学識経験者、一般有識者
- (2) 公立高等学校の校長及び教諭
- (3) 市町村立小中学校の校長及び教諭
- (4) 市町村教育委員会関係者
- (5) P T A関係者
- (6) 県教育委員会事務局

第3 議長及び副議長

- (1) 会議には議長及び副議長をおく。
- (2) 議長及び副議長は、委員のうちから互選する。
- (3) 議長は会議を主宰する。
- (4) 副議長は議長を補佐し、議長に事故あるときはその職務を代理する。

第4 会議の招集

会議は県教育委員会教育長が招集する。

第5 幹 事

会議には幹事をおく。幹事は会議の事務について委員を助ける。

第6 専 門 員

会議には、専門の事項を調査する必要があるときは専門員をおくことができる。

第7 意見聴取

会議は、必要があると認めるときは、関係者の出席を求めてその意見を聞くことができる。

第8 会議の公開

会議は、議長の判断により、会議の一部又は全部を公開しないことができる。

第9 会 議 録

会議は、会議録を作成し、その保存期間は5年間とする。

第10 雑 則

この要綱に定めるもののほか、会議の運営に関し必要な事項は県教育委員会教育長が定める。

附 則

この要綱は、昭和48年5月11日から実施する。

附 則

この要綱は、平成14年4月26日から実施する。

平成24年度愛知県公立高等学校入学者選抜方法協議会議

委員名簿 (順不同・敬称略)

中京大学大学院社会学研究科長 (議長)	村 上	隆
愛知淑徳大学教授 (副議長)	中 野	靖彦
愛知教育大学大学院教育実践研究科特別教授	神 谷	孝男
至学館高等学校長	松 本	吉男
トヨタ自動車株式会社人事部名古屋人事室長	石 田	裕康
名古屋銀行人事部人事グループ	國 井	佳奈
愛知県地域婦人団体連絡協議会長	山 田	久子
愛知県公立高等学校PTA連合会長	玉 腰	崇之
愛知県小中学校PTA連絡協議会長	廣 中	清介
名古屋市教育委員会学校教育部長	西 淵	茂男
尾張旭市教育委員会教育長	玉 置	基
田原市教育委員会教育長	川 口	侃
愛知県立岡崎高等学校長	高 須	勝行
愛知県立旭丘高等学校長	川 村	則夫
名古屋市立向陽高等学校長	措 木	茂賀
愛知県立愛知工業高等学校長	川 嶋	繁勝
名古屋市立東桜小学校長	坂 野	重法
名古屋市立大曾根中学校長	野 澤	和彦
武豊町立富貴中学校長	内 田	幹男
豊川市立小坂井中学校長	山 田	清志
愛知県立旭野高等学校教諭	笹 山	茂晃
名古屋市立工芸高等学校教諭	小 島	俊樹
名古屋市立御器所小学校教諭	藤 好	三知雄
愛知県総合教育センター所長	杉 浦	慶一郎



平成24年 7月20日

愛知県教育委員会教育長

野 村 道 朗 殿

愛知県公立高等学校入学者選抜方法協議会議

議 長 村 上 隆

愛知県公立高等学校入学者選抜方法について（報告）

平成24年5月25日付けで諮問のありましたこのことについて、慎重に検討・協議を行った結果、別紙のとおりまとめを得たので、ここに報告いたします。

別紙

平成24年度愛知県公立高等学校入学者選抜方法協議会議

ま と め

全日制課程における群及びグループのあり方については、このことを含めて実施した入学者選抜制度にかかる調査の結果等を踏まえ、次のようにすることが望ましい。

全日制課程における群及びグループのあり方を中心に、有識者や教育関係者等による検討会議を新たに設置して、現行制度の利点及び課題について幅広い視点から検討し、必要な改善を図ることが望ましい。

本県公立高等学校の全日制課程入学者選抜は、推薦入学と、実施期日をずらした二つのグループにおける一般入試を行っています。この複合選抜制度は、生徒一人一人の個性の優れた面を尊重し、人物を多角的に評価できるようにするとともに、高等学校への受検機会を複数化することなどを特色とした制度であり、平成元年度にスタートしました。

その後、少子化の進展や交通事情の変化など、入学者選抜をとりまく様々な社会状況の変化から、複合選抜制度にはいくつかの課題が生じてきました。そのため、平成16・17年に「愛知県公立高等学校入学者選抜における群及びグループのあり方に関する懇談会」を開催し、その協議のまとめを踏まえ、平成19年度入学者選抜から群及びグループの見直しを行いました。この見直しでは、それ以前の群及びグループの組み合わせを基本にしつつ、それぞれの地域における学校選択の幅を広げることにより、地域にある比較的通学に負担の少ない学校との組み合わせで2校受検がしやすくなるよう配慮しました。

また、定時制課程・通信制課程の入学者選抜については、それぞれの志願者の進路決定の時期を早めるとともに、受検機会を複数回確保することができるよう、定時制課程では平成19年度から、通信制課程では平成17年度から入学者選抜を前期選抜と後期選抜の2回に分けて実施するように変更しました。

本県の入学者選抜制度は、こうした見直しや変更から5年以上が経過しており、今年度の愛知県公立高等学校入学者選抜方法協議会議においては、「平成19年度に実施した群及びグループの改善の結果、一定の成果があがっていると考えられるが、課題についてはさらに調査が必要であり、受検生に不安を与えることがないよう配慮しながら、引き続き行うこととする。」とのまとめを得ました。

こうしたことから、全日制課程の推薦入学や定時制課程、通信制課程等の入学者選抜制度も含めて、この機会に入学者選抜制度に関するアンケートを公立高等学校長及び公立中学校長を対象に行うこととしました。

ついては、学校、地域の実情を踏まえ、校長としてのお考えを回答ください。回答は全て回答用紙に記入（入力）してください。

愛知県教育委員会

入学者選抜制度に関するアンケート

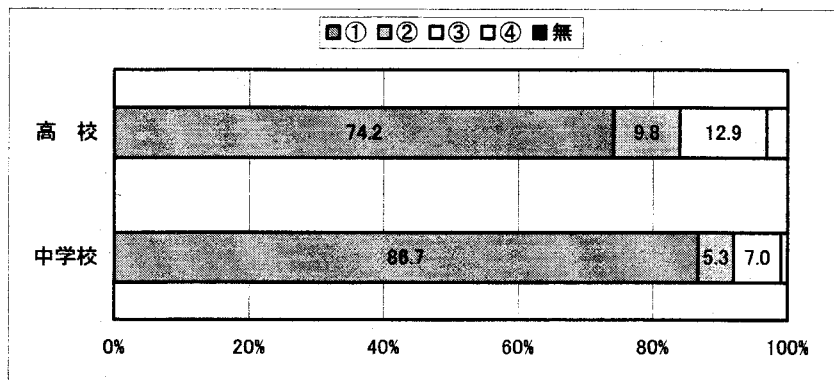
高校 163校、中学校 412校

I 全日制課程の入学者選抜について

問 I-1 普通科の通学区域の制度についてどのようにお考えですか。下の①から④までのうちから、あなたのお考えに最も近いものを一つ選んで、その番号を記入してください。

- ① 現行の制度が長年実施されて定着しており、現行の学区のままでよい。
- ② 地域の高等学校へ進学しやすくなるように、学区を現行より小さくする方がよい。
- ③ 学区にしばられることなく、志願する学校を自由に選べる方がよい。
- ④ その他（具体的にお書きください。）

	①	②	③	④	無
高校	74.2	9.8	12.9	3.1	0.0
中学校	86.7	5.3	7.0	1.0	0.0

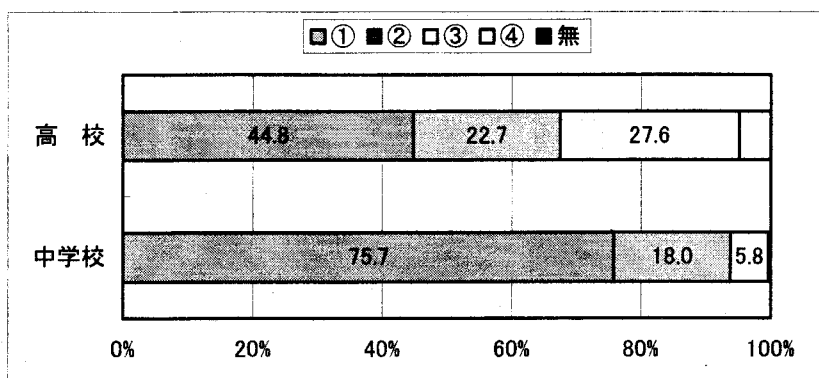


問 I-2 現行の入学者選抜制度は、一般入試において2校受検が可能な制度です。

一般入試において2校受検が可能な現行の入学者選抜制度についてどのようにお考えですか。下の①から④までのうちから、あなたのお考えに最も近いものを一つ選んで、その番号を記入してください。

- ① 2校受検が定着しており、現行制度がおおむね適切である。
- ② 2校受検を可能としつつも、改善を必要とするところがある。
- ③ 2校受検の可否を含めて、抜本的に改善する必要がある。
- ④ その他

	①	②	③	④	無
高校	44.8	22.7	27.6	4.9	0.0
中学校	75.7	18.0	5.8	0.2	0.2

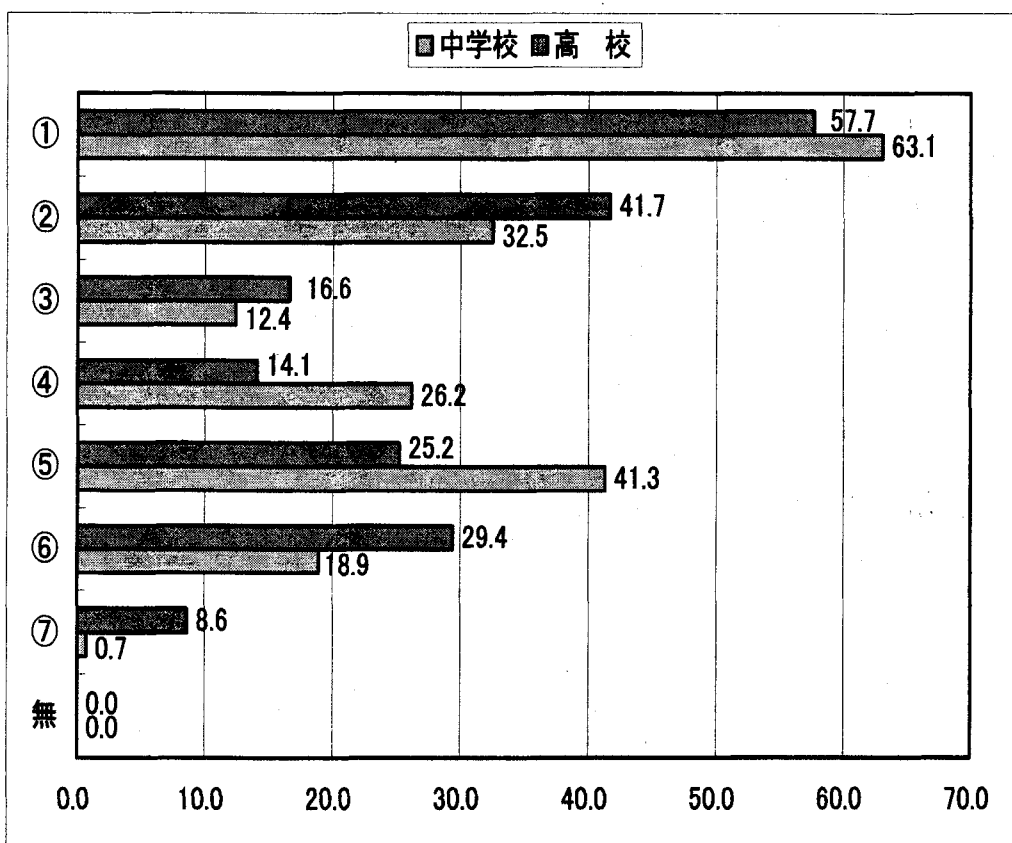


問 I - 3 入学者選抜制度のあり方について考える場合、どのようなことを特に重視すべきだと思いますか。あなたのお考えを下の①から⑦までのうちから二つまで選んで、その番号を記入してください。

- ① 生徒の個性や高等学校の特色に応じ、志望校を幅広く選択できること。
- ② 多くの生徒が地域の高等学校へ進学することで、地域全体が活性化すること。
- ③ 様々な地域から生徒が集まり、生徒同士の切磋琢磨が行われること。
- ④ 遠距離通学が少なくなり、生徒や家庭の負担が少なくなること。
- ⑤ 中学校における学習や活動の成果が十分に評価されること。
- ⑥ 高等学校の課程や学科の特色に応じた多様な選抜方法や複数の選抜機会があること。
- ⑦ その他（具体的にお書きください。）

I-3

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	無
高 校	57.7	41.7	16.6	14.1	25.2	29.4	8.6	0.0
中学校	63.1	32.5	12.4	26.2	41.3	18.9	0.7	0.0



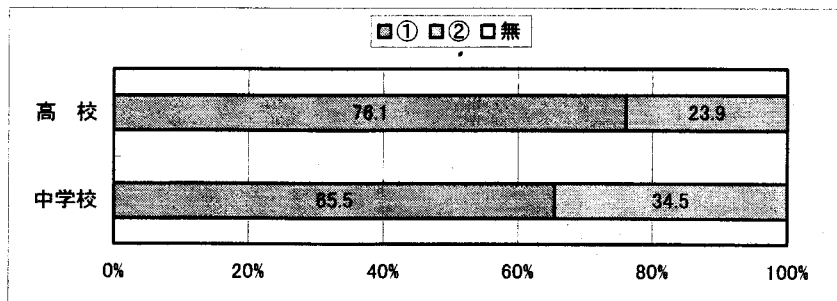
問Ⅰ－４ 現行の入学者選抜制度では、推薦入学を全ての高等学校で実施しています。推薦入学においては、学力検査を行わず、面接を行うこととしています。

この推薦入学に関する次の項目について、あなたのお考えを選んで、その番号を記入してください。

ア 推薦入学の選抜基準について

- ① 現行がおおむね適切である。 ② 改善する必要がある。

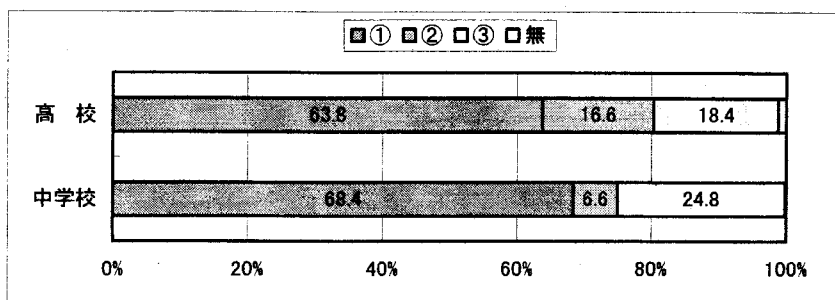
	①	②	無
高 校	76.1	23.9	0.0
中学校	65.5	34.5	0.0



イ 推薦入学定員枠について

- ① 現行がおおむね適切である。 ② 拡大した方がよい。 ③ 縮小した方がよい。

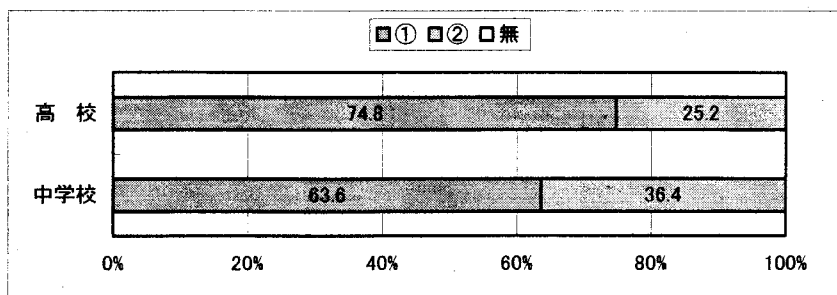
	①	②	③	無
高 校	63.8	16.6	18.4	1.2
中学校	68.4	6.6	24.8	0.2



ウ 推薦入学の選抜方法について

- ① 現行がおおむね適切である。 ② 改善する必要がある。

	①	②	無
高 校	74.8	25.2	0.0
中学校	63.6	36.4	0.0

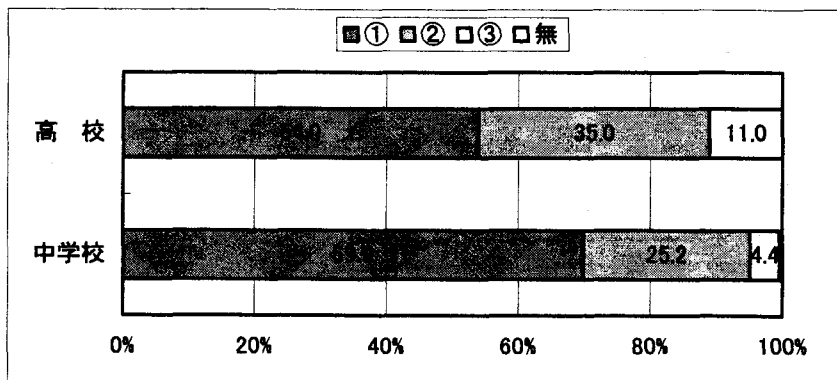


問 I - 5 平成 19 年度に見直しを行った現行の群及びグループ分け（1・2 群共通校を含む。）
 についてお尋ねします。

この見直しを行った現行の群及びグループ分けについてどのようにお考えですか。下の①
 から③までのうちから、あなたのお考えを選んで、その番号を記入してください。

① 現行がおおむね適切である。 ② 改善する必要がある。 ③ その他

	①	②	③	無
高 校	54.0	35.0	11.0	0.0
中学校	69.9	25.2	4.4	0.5

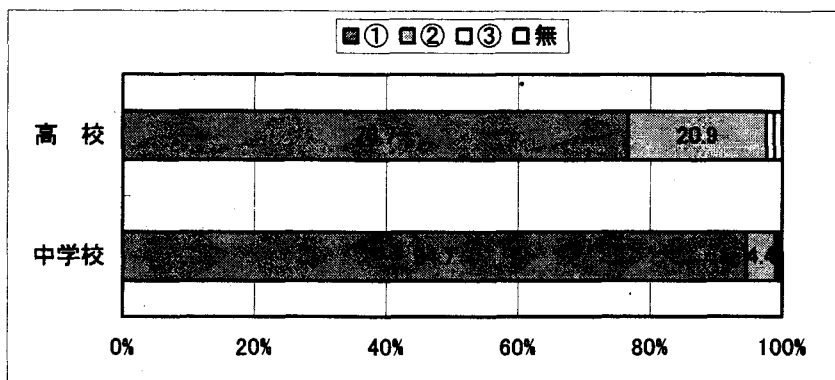


問 I - 6 全日制課程の入学者選抜においては、入学志願者全員に対し 5 教科の学力検査と面接を
 実施しています。

このことについて、あなたのお考えを選んで、その番号を記入してください。

① 現行がおおむね適切である。 ② 改善する必要がある。 ③ その他

	①	②	③	無
高 校	76.7	20.9	1.2	1.2
中学校	94.7	4.4	0.5	0.5



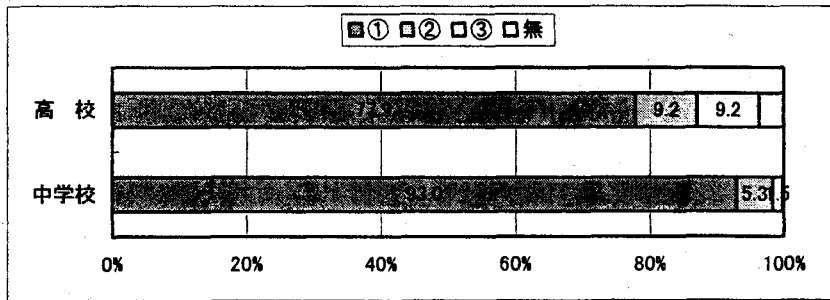
Ⅱ 定時制課程の入学者選抜について

問Ⅱ－１ 定時制課程の入学者選抜においては、志願者の進路決定の時期を早めるとともに、受験機会を複数回確保することができるよう、平成19年度入学者選抜から前期選抜と後期選抜の2回に分けて実施しています。

このことについて、あなたのお考えを選んで、その番号を記入してください。

① 現行がおおむね適切である。 ② 改善する必要がある。 ③ その他

	①	②	③	無
高校	77.9	9.2	9.2	3.7
中学校	93.0	5.3	1.5	0.2

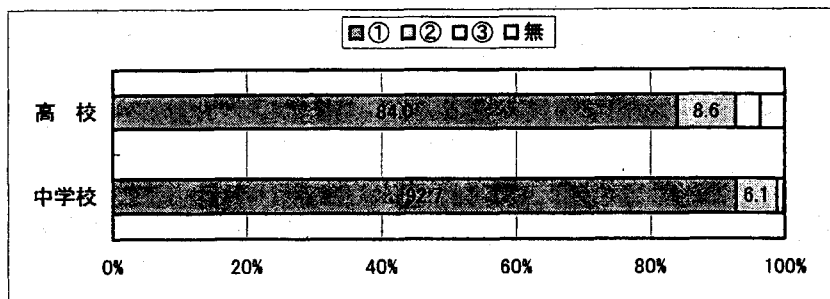


問Ⅱ－２ 定時制課程の入学者選抜においては、作文及び面接を実施し、高等学校長が必要と認めた場合は、学力検査（中学校の国語、数学及び外国語（英語）の学習内容の基礎学力検査）を実施することができるとしています。

このことについて、あなたのお考えを選んで、その番号を記入してください。

① 現行がおおむね適切である。 ② 改善する必要がある。 ③ その他

	①	②	③	無
高校	84.0	8.6	3.7	3.7
中学校	92.7	6.1	1.0	0.2



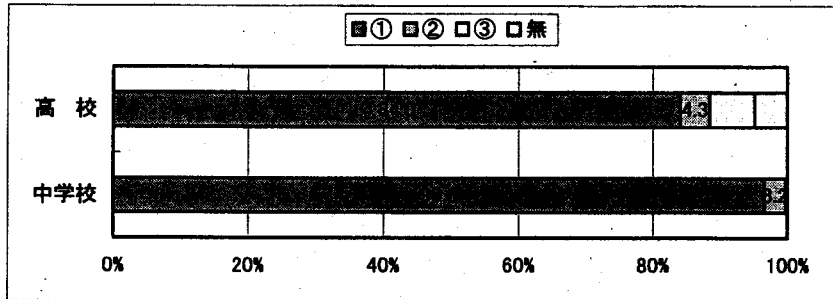
Ⅲ 通信制課程の入学者選抜について

問Ⅲ－１ 通信制課程の入学者選抜においては、志願者の進路決定の時期を早めるとともに、受検機会を複数回確保することができるよう、平成 17 年度入学者選抜から前期選抜と後期選抜の 2 回に分けて実施しています。

このことについて、あなたのお考えを選んで、その番号を記入してください。

- ① 現行がおおむね適切である。 ② 改善する必要がある。 ③ その他

	①	②	③	無
高校	84.0	4.3	6.7	4.9
中学校	96.6	3.2	0.2	0.0

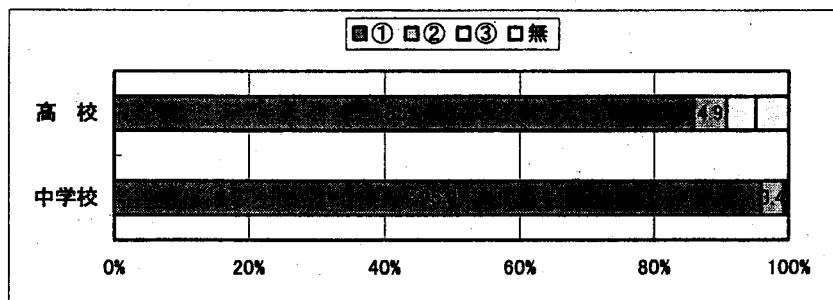


問Ⅲ－２ 通信制課程では、学力検査は行わず、調査書・自己申告書等の審査により合格者を決定しています。また、高等学校長は、合否判定のための十分な資料を得るため、作文及び面接またはそのいずれかを行うことができるとしています。

このことについて、あなたのお考えを選んで、その番号を記入してください。

- ① 現行がおおむね適切である。 ② 改善する必要がある。 ③ その他

	①	②	③	無
高校	85.9	4.9	4.3	4.9
中学校	95.9	3.4	0.5	0.2



問Ⅳ こうした特別な入学者選抜等も含め、入学者選抜全般について、御意見がありましたら、お書きください。

【高校からの意見】

- ・ 入試にかかる事務量を減らす必要がある。
- ・ 海外帰国生徒、外国人等選抜は必要なのか。

など

【中学校からの意見】

- ・ 海外帰国生徒選抜、外国人生徒等選抜実施校を拡大して欲しい。
- ・ 受検上の配慮は大変ありがたく、今後もお願いしたい。

など